

	日本の貿易	学習日 月 日	名前
--	--------------	------------	----

教科書 P162～ 要点ノート P104～

【輸出入品の変化】

① 第二次世界大戦前

繊維原料を輸入 = (1)の輸入

繊維製品を輸出 = (2)(3)を輸出

※ 繊維製品を中心とした軽工業製品の(4)を行っていた。

加工貿易 = 原料を輸入し、製品を輸出するという貿易

② 第二次世界大戦後

工業原料の輸入 = (5)や鉄鉱石の輸入

工業製品の輸出 = (6)や鉄鋼の輸出

※ 機械類(輸送用機器)などを中心とした重化学工業の(4)を行っていた。

③ 現在

機械の輸入が増加 = 簡単に作れるもの、労働力志向型の製品を輸入

機械の輸出 = 高度な技術が必要なものを輸出

※ 中国や東南アジアからの輸入が特に増加。

※ 国内では産業の空洞化がみられ、産業はソフト化している

【貿易相手国の変化】

① 第二次世界大戦前

アメリカ・中国・アジア諸国が中心

② 第二次世界大戦後

アメリカ中心

③ 現在

(7)が輸出入総額で1位となる。輸出の1位は(8)

中国 = 世界の工場

【貿易摩擦】

① 貿易摩擦の原因

1970年代以降、輸出産業が高い国際競争力を持つようになる

一方、日本は農産物を中心に輸入障壁が存在

また、為替的には(9)だった

→ 日本の貿易(10)の増大 = 外国は貿易(11)

※ アメリカやEU諸国との間で貿易摩擦が起こる

② 対応

1980年代以降、アメリカで自動車の現地生産、部品の現地購入の進展 → (12)の増大

日本は輸入自由化が求められる → 1993 牛肉・オレンジ輸入自由化、1995 コメのミニマムアクセス実施

円高も進展

【日本企業の多国籍化】

日本の企業は貿易摩擦対策、円高対策として生産拠点を海外に移転

また、安価な(13)を求めて、発展途上国に進出

結果、日本で産業の(14)が起こる

【近年の様子】

(15)… 緊急輸入制限措置 = 中国からの安い農産物の大量輸入に対応

FTA・EPAの締結 = インドネシア、メキシコ、EUなど。TPPにも加盟

【日本の経済協力】

(16) = 政府開発援助

政府による支援。無償技術援助、技術協力、政府貸付など。

戦後長い間、アジア諸国に対しては戦後賠償の意味合いもあった

(17) = 国際協力機構

(18)の実施気候で、ボランティア派遣事業である(19)を実施

(19) = 非政府組織

国際赤十字、国境なき医師団